

全道最優秀賞 まちへの想い

夕張高校 チャレンジ・モア・スピリッツ 第二号

全道家庭部会意見・ 体験発表大会で最高賞

夕張高校3年生の二階堂のかさんが、8月25日に江別市で行われた道高等学校長協会主催の体験発表大会で最高賞となる最優秀賞を受賞した。

実る夕張高生の挑戦

二階堂さんが所属する3年生は、市の依頼のもと、5月から計8時間、家庭科の授業の中で、仮設のバス待合所である「バスまちスポット」(南清水沢3丁目ホームマックニコト夕張店横)の空間デザインなどに挑戦した。また、夕張高生は、7月7日・8日に行われた学校祭において、全校生徒をあげたよさこいを史上初めて取り入れるなど、学校祭のスタイルを大きく変えるチャレンジを成し遂げた。かつて夕張市にあった「夕張寅次郎」の振付けを完全コピーしたよさこいは、8月25日のメロード納涼祭でも披露され、評判をとった。



表彰状を手に笑みをみせる二階堂さん

全道最優秀賞 発表内容全文

「夕張は倒れたままだ。」「夕張は言い訳するの。」今年3月に完成した夕張市のまちづくりコンセプト映像にある台詞の一部です。

皆さん「存じのように、私のふるさと夕張は全国で唯一、財政破綻をした地方自治体です。あれから人口は3割減少し、6つあった小学校と3つあった中学校はそれぞれ1つに統合されました。図書館や美術館がなくなり、水道料金が値上げするなど、「全国で最高の負担、最低の行政サービス」と言われました。

財政破綻当時、私は小学校1年生でした。私にとって小学校の統合は大きな出来事でしたが、暮らしそのものは変わらず、子どもにとって財政破綻の重さを知ることはありませんでした。しかし、メディアがとりあげるのはネガティブなものばかり。いつしか私は「財政破綻はもういいよ。」という気持ちになっていました。

そんな状況が変わり始めたのが昨年です。財政破綻から10年が経ち、新たなまちづくりを目指し始めたのです。その宣言といえるものがまちづくりコンセプト映像だったのです。

そこでは「若者はエネルギー」とし、「再出発、挑戦あるのみ。Restart Challenge More」のメッセージで終わります。

私はその撮影に高校生スタッフとして参加しました。これをきっかけに「私たち高校生が夕張市のためにできることは何だろう」と考えるようになりました。

そんな中、この5月に家庭科の授業で、バスまちスポットという施設の内部空間を、市役所の方と協同で考えることになったのです。

私たちが最初に学んだのが、「公共」という概念でした。公共の場とは、誰もが過ごしやすく使いやすい場であればならないということ。それを前提として私たちは考えました。屋外にベンチを置いて買い物途中に気軽に休めるようにしたい、乳幼児が遊べるスペースが欲しい、観光客にも利用してもらえようように看板を作ろう。様々な人の交流の場としてカラオケを設置したらどうか。子どもたちのために「うさぎ」を飼おう……私たちは次から次へアイデアを出し合い、そしてその結果を市の職員の方々にプレゼンしたのです。

ところが市の職員の方から「カラオケを置いても皆が楽しめるとは限らないんじゃないか」とか「うさぎを飼うと言っていたけれど、糞の始末は誰がするの?」という指摘がありました。

「一瞬、場が凍り付きました。私たちにしてみれば「せつかく考えたのに」ここまで厳しく言わなくてもいいじゃないか。」という気持ちになったのです。しかし、その後、改めて自分たちの案をとらえなおした時に、私たちの姿勢にまだ甘さが合ったことに気付きました。つまり、私たちは利用する側の視点だけで考えていたのです。私たちは公共の場に生きていながら、公共の場の意味さえ気付かず、与えられたものは空気のように当然そこにあるものとして生きていくのではないのでしょうか。私たちは公共サービスを受ける権利もありますが、同時に果たさなければならぬ義務もあります。守らなければならないルールやモラルも存在するのです。

そこで私たちは、各グループからの提案を検討し、再修正するかたちで市に対して最終提案をしました。また、市民に向けた利用マナーの呼びかけや近隣の商業施設の協力依頼文も作成しました。

こうした私たちの取組を夕張市は評価してくださいました。この取組の後、独身者向け住宅の間取りやデザインを私たち高校生と協同で行うことも始めています。

この高校生の考えを地域社会に反映させるという新たなチャレンジは、私に「地域の二員」という意識を芽生えさせてくれました。私たちが行政や政治に対して関心を持ち、声をあげることの重要性を理解し、自分たちが高校生としてできることは何かを本気で考え始めたのです。

例えば、私たちは今年の学校祭のスタイルを大きく変えました。1間口の小さな学校ができることとして、全校生徒によるよさこいを披露したのです。これは夕張市にかつてあったよさこいを復活させたものです。それを見たあるお年寄りは「元気をもらいました。」とおっしゃっていました。私たち高校生が失敗を恐れずにチャレンジする姿は、地域の方々に勇気を与えるのだと確信した瞬間でした。

夕張市が「Restart Challenge More」をスローガンにして立ち上がろうとする今、私たち高校生も直接地域にかかわり、さらに夕張市の希望となる一歩を踏み出すことができたのです。

私たちは立ち上がる。言い訳をしない。チャレンジ・モア・スピリットで未来に立ち向かうことをここに誓います！



RESTART
Challenge More.

全道最優秀賞 まちへの想い

夕張高校
チャレンジ・モア・スピリッツ
第二号

日本の次世代リーダー養成塾

(福岡県宗像市)

夕張高校2年生の小笠原萌さんが、福岡県宗像市において7月25日から8月7日までの日程で開催された「日本の次世代リーダー養成塾」に参加し、未来を担うリーダーとしての考え方を学んだ。

日本の次世代リーダー養成塾とは

高校生を対象に開催される。2週間にわたって各界リーダー(知事、大学教授、社長など)による講義のほか、参加者である高校生自身が日本、世界のことについて議論し合うなど、未来を担う次世代のリーダーとなるための力をつけるため、さまざまな取り組みを行うもの。

選考試験を通過して

小笠原さんは、北海道内での選考試験に合格し、「参加権推薦枠」で参加した。試験は二次が書類審査、二次が面接とグループディスカッションとなつていの中で、教諭からアドバイスを受けながら、大変な準備を経て、見事参加権を勝ち取った。

得ることができた経験、学び

「一番大きなイベントであった「アジアハイスクールサミット」では、8つある組ごとに「争い」というテーマをもとに2週間にわたって議論をかわした。小笠原さんの組は「偏見」から始まる争いについて深く議論し、発表に向け、団結して頑張った結果、発表会では見事優秀賞を獲得した。賞品は元マレーシア首相のマティール氏の直筆サインであった。

小笠原さんは、これらの経験をを通して、みんな



卒塾式において握手を交わす小笠原さん

励まし合い、アドバイスし合う「団結」の大切さや、人としてのあり方を学んだほか、かけがえのない大切な仲間を得ることができたと述べた。

また、小笠原さんは次のようにも述べている。

「リーダー塾に限らず、どんな不安なことでも挑戦してみることは大切だと思います。実際に私も、これに参加するための選考試験に対してや、リーダー塾の期間中うまくやっていけるかなどの不安を持つていましたが、行ってみればかけがえのない経験ができました。」

挑戦することは、どんな時にでも皆さんにとって重要なことになってくると思っています。皆さんもぜひいろいろな機会挑戦していつてみてください。」

東京都八丈高校留学体験

夕張高校2年生の田中宏樹君、石上弥咲さん、及川莉子さんの3名が、東京都八丈高校において、10月3日～9日までの日程で留学体験を行った。

八丈高校留学を経て起きた変化

期間中は八丈高校との交流のほか、地熱発電の調査など、生徒はそれぞれの課題に取り組んだ。3名の生徒は、八丈高校留学を通して、知らない人とも積極的に話題をふったり、質問をするなどの「コミュニケーション力」や、何事にも一歩踏み出そうとする「挑戦心」が身についたと述べた。



八丈高校の生徒たちと



RESTART
Challenge More.

ピコピコシステム 始動

夕張高校
チャレンジ・モア・スピリッツ
第三号

中学生・高校生を対象としたスクールバスの予約システム(ピコピコシステム)がこのほど、運用開始となった。

ピコピコシステムとは

スクールバスのうち、乗車人数が一定でない平日最終便(部活動後に乗車する便)と、休日便について乗車予約を行うシステム。

インターネットに接続された家庭などのパソコン、スマートフォンなどから操作することができるほか、高校、中学校、バスまちスポットに予約専用タブレットを配置している。

これまで、平日最終便と休日便は、乗車人数が部活動などに左右され、二定でないことから、使用する車両の定員と、実際の乗車人数との間に差(無駄)が生じていることが課題となっていた。

このシステムを通じた生徒たちの予約操作によって、乗車人数が少ない時はタクシー車両などの小さな車両で運行できるように、運行する事業者の負担軽減につながる。

まさに生徒たちが今、住民の一員として地域交通を守っているのである。

開発に関与した夕高生

夕高生5名(高橋さん、二階堂さん、北上くん、田中くん、本間さん)は、モニターとして、7月26日より一か月間システムを試験的に使用し、利用者の目線から改善点などを提案することで開発に携わった。

夕高生からの提案が反映され、システムがより使いやすくなったことにより、中学生・高校生からは、「簡単」「使いやすい」などの声があがっている。

彼ら5人の夕高生が、市内中高生のスクールバス予約化の挑戦に先鞭をつけたと言えよう。



右:改善前画面 左:夕高生の提案による改善後画面
氏名の入力省略され、スピーディーな操作が可能になった。

システムを開発した(株)ユニ・ランド井下氏に質問する夕高生

市政に「リミット」する夕高生

夕高生の市政へのかかわりの成果は、「ピコピコシステム」だけではない。読者の皆さんの多くは、すでに新聞テレビなどの報道で御承知かと思うが、夕張高生は、家庭科の授業において南清水沢3丁目に開設した「バスまちスポット」の企画を行った。必要な備品や、内部空間のデザインなどを通して、様々な年齢の利用者にとっての使いやすさ、公共について考えながら議論を進め、アイデアをまとめた。

夕高生のアイデアをほとんどそのまま採用した「バスまちスポット」は、平日正午から午後7時30分まで、休日正午から午後4時30分まで、誰でも利用することができる。

普段バスを使わない読者の皆さんにも、ぜひ一度足を運んで、夕高生の活躍を肌で感じてほしい。



夕高生の提案をもとに改善されたシステムを使って予約操作を行う夕張中学校の生徒



RESTART
Challenge More.



魅力ある高校づくりへの取り組み

問合せ先 夕張高校 ☎59-7808

ゆうばり屋台村鶴が

亭店主小山様による調理実習を
行いました。



3学年の11月15日に行った調理実習に市内飲食店「鶴が亭」店主の小山様を講師としてお招きし、寿司の握り方について学びました。
生徒たちは「十貫を握り、皿に盛りつけた後に全員で審査を行い、上手に握った人ベスト3を決めました。
皆、楽しみながら寿司を握り、大満足のうち実習を終えました。

見学旅行に行ってきました。

2学年19名は、11月14日より、4泊5日の見学旅行に行ってきました。

初日は関西国際空港からバスで神戸へ行きました。神戸港震災メモリアルパークなどを訪れ、神戸中華街で夕食をとりました。

二日目は、京都へ移動し、嵐山を散策後、「良弥京都嵐山本店」で昼食をとり、午後からは金閣寺などを見学しました。金閣寺では、生徒2名がガイドを務めました。

三日目は、清水寺に行った後、京都市内を班別に自主研修しました。

四日目は、ユニバーサルスタジオジャパン、最終日は奈良へ向かい、薬師寺、奈良公園を見学し、無事に夕張へ帰ってきました。



「進学研究」報告会を行いました。

1学年による進学研究報告会を、11月22日に行いました。これは、10月19日に大学・専門学校を見学した際の学び（先月号の本コーナーで紹介しています）を、各々がプレゼンテーションし、今後の進路について考えるきっかけにすることを目的としています。



平成29年度
生徒会役員認証式を行いました。

11月30日に生徒会役員認証式を行いました。8名の役員を代表し、北上光詩会長からは「まずは、笑顔溢れる生徒会を作ること、そのパワーを全校生徒に届けていきたい」と所信表明がありました。学校長からは「今後も引き続き」チャレンジモアスピリットを体現してください」とのメッセージがありました。



ふるさと納税サイト社長 夕高生に語る

夕張高校 チャレンジ・モア・スピリッツ 第五号

12月14日に、ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」を運営する株式会社トラストバンク社長の須永珠代氏が、夕高生を対象に講話を行った。

株式会社トラストバンクとは

ふるさと納税とは、自分の選択した自治体に納税という形で寄付を行う制度だが、ふるさと納税サイトを通じて、インターネット上で行うことができる。

同社は、数あるふるさと納税サイトの中でも最大規模の「ふるさとチョイス」を運営している企業である。



12月14日夕張高校体育館にて講演している
株トラストバンク社長 須永 珠代 氏

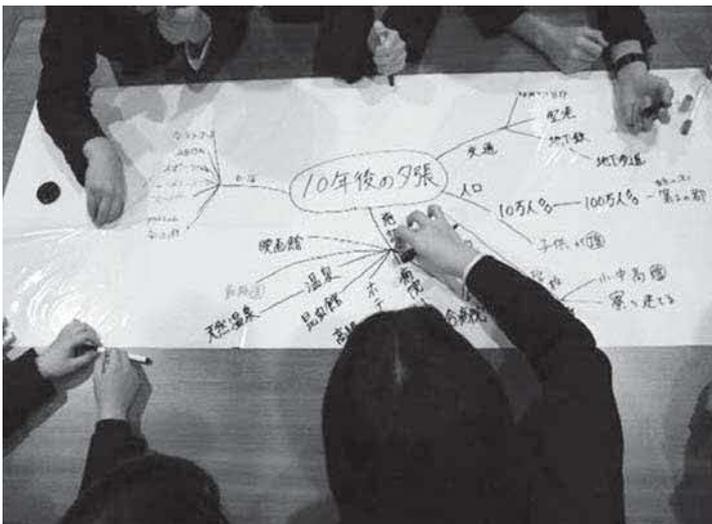
「キセキの授業」の二環と一環

現在夕張高校では、夕張市と協同し、高校を生徒たちにとってよりよい学舎とするため、「夕張高校魅力化プロジェクト」を実施しているところだ。今回の講演はそのプロジェクトの一環として、あらゆる分野の「大人たち」が、自分のしてきた経験を夕高生に伝える「キセキの授業」として、同プロジェクト

に共感した(株)トラストバンク 須永社長の厚意によって実現した。
須永社長からは、「キセキを起すたった一つの大切なこと」と題し、自身の起業に至る経緯やその時の思いなどの話があり、夕高生にとって貴重な経験となった。

講話の後は、生徒たちを複数の班に分け、「10年後の夕張のすがた」をテーマに「マインドマップ」を作りながら考えるコーナーを設けた。このマインドマップとは、一つのテーマに沿って、そこから連想される要素や物事を次々と書き足していく、アイデア出しや、思考の整理に役立つものだ。今回は、どんな突飛なアイデアであっても賛成することをルールとして行い、夕高生たちは、想像力の大切さを体験したようであった。

3年生の小川さんはこの講話を通して、「視点を上げること、想像を膨らませる大切さを学びました。卒業後の生活では、この2点を意識して将来の目標を設定していきたい。」と述べた。



互いに賛成し合いながらマインドマップを作成する夕高生

「夕張高校魅力化プロジェクト」 とのかかわり

夕張市では、前述の「夕張高校魅力化プロジェクト」の資金を調達するため昨年7月から12月にかけて、同社の「ふるさとチョイス」上においてクラウドファンディングを行ったところである。

7百万円を目標としていたところ、多くの寄付者の共感を得ることができた結果、2千万円を超える資金が集まった。今後はこの資金を活用して、夕高生の学びに役立てることになる。



「ふるさとチョイス」上でクラウドファンディングを行った



RESTART
Challenge More.

商品開発プロジェクト 進行中

夕張高校 チャレンジ・モア・スピリッツ 第六号

地場産品を取り入れつつ

夕張高校ではいま、「幸福の黄色いハンカチ想い出 広場 HAMAMATSU CAFEの来春オープン日」に合わせて提供するスイーツの商品化を目指しているところだ。

2学年就職・専門学校進学コースの生徒たちが開発に取り組むスイーツは、夕張産長芋と、短期留学体験等つながりのある八丈島産のフルーツレモンを使用したシフォンケーキで、目下、市内菓子店「お菓子のふじ」と共同開発を行っている。

「お菓子のふじ」店主の前田氏は、これまでも調理実習の講師を行うなど、夕高生の学びに協力している。



シフォンケーキの試作品 付け合せを工夫している

スクールバス部活利用の 生徒・保護者の皆様へ

ピコピコシステム(詳細は12月号参照)を用いた予約の状況について皆さまの御協力で、よい成績が続いています!

2月1日からの予約数・乗車数

●凡例	
中: 中学生	高: 高校生
a/b (a:乗車数 b:予約数)	
2月1日(木)	
102便 中 4/3	高 0/0
104便 中 9/8	高 4/3
2月2日(金)	
102便 中 5/5	高 0/0
104便 中 4/6	高 6/6
2月3日(土)	
101便 中 1/1	高 0/0
103便 中 5/6	高 1/2
105便 中 3/3	高 0/0
106便 中 1/1	高 0/0
108便 中 5/6	高 1/2
2月4日(日)	
103便 中 0/2	高 1/0
105便 中 1/1	高 1/2
107便 中 0/0	高 0/1
108便 中 2/3	高 0/0
110便 中 1/1	高 2/2
112便 中 0/0	高 0/1
2月5日(月)	
104便 中 0/0	高 3/3
2月6日(火)	
104便 中 0/0	高 2/2
2月7日(水)	
102便 中 3/3	高 0/0
104便 中 8/8	高 9/9
2月8日(木)	
104便 中 0/0	高 6/6
2月9日(金)	
102便 中 4/4	高 0/0
104便 中 2/3	高 1/2

商品案のプレゼン・ 試食会を実施

昨年12月18日には、「お菓子のふじ」店主の前田氏と夕張市役所職員4名をアドバイザーとして迎え、商品案のプレゼンテーションと、試食会を実施した。



真剣な眼差しで各グループ案を
評価するアドバイザーら

夕張高校 進む社会参画

この商品開発プロジェクトをはじめ、本紙でもこれまで紹介してきたバスまちスポット、ピコピコシステム、民間アパート内装デザインなど、夕高生の取り組みが社会に還元されてきている。

このような経験を通じて、社会に対する感性を養い、卒業後も彼らが活躍し続けてくれることを願うばかりだ。



モニターを使用し、商品案のプレゼンを行う夕高生



RESTART
Challenge More.

卒業おめでとう!! 次のステージへはばたく夕高生

夕張高校
チャレンジ・モア・スピリッツ
第七号

平成30年3月1日、夕張高校体育館において第26回卒業証書授与式が挙行された。

晴れの日を迎えた35名

今回卒業となった26期生35名は、夕張高校がクラスとなった最初の学年である。
一クラスとなり、人数が少なくなっても「夕張だからできること」に目を向け、様々な分野で活躍してくれた。



卒業式の様子



式では2年生が茶菓子を開発し、来賓・保護者におもてなしを行った

Challenge More Spirit

を体現

昨年7月に行われた学校祭では、生徒数が少なくなったこともあり、これまで行われていた仮装パレードが行えなくなりましたが、少ない人数だからこそできることは何か、どうしたら全員が楽しめるかを考え、「Change〜歴史を塗り替える〜」のローガンのもと、学校祭の内容を大幅に変更した。

変更の中心となった全校生徒によるよさこいは、下級生をよくリードして、学年の垣根を越え、息の合った演舞を実現した。
また、市の施策などへの参画を通じて、地域にも貢献した。



よさこいは「ゆうばり寅次郎」の振り付けを再現した



宮前町に建設された賃貸アパートの壁紙選定を行う様子

空間デザインを行ったバスまちスポットは、利用者の多くから好評を得ているほか、宮前町の賃貸アパートの壁紙選定にも関わるなど、幅広い活躍は市民の誇りとするところだ。
卒業おめでとう!



“公共”を念頭に、バスまちスポット空間デザインを考えた



夕高生の頑張りによって、全ての世代に使いやすい空間となった

夕張高生
向け告知

夕張市公設塾「夕張学舎キセキ」

15:30~21:00 (土日祝休)

見学だけでもOK!

4月下旬オープン!

無料体験講座、実施中

- ・夕張高校 から徒歩3分!!
- ・バスまちスポット

住所: 夕張市南清水沢3丁目27番地1
問合せ先: 市企画課 ☎52-3141



「AKIRA☆GROUP」の文字が目印です



RESTART
Challenge More.



オープンに向けて準備中!



夕張学舎キセキノ

平成三十年四月二十三日（月）オープン



～「キセキノ」に込められた思い～

- 一. 奇跡…常に高い目標を持ち、決して諦めずにコトを起こす。
- 二. 軌跡…先人が遺した歴史や財産を重んじ、自分の未来を開拓する。
- 三. 輝石…自分の可能性を信じ、家族や友人への感謝を胸に、光り輝く。

夕張学舎キセキノとは？

- 夕張市が取り組む「夕張高校魅力化プロジェクト」の一環として設置した塾です。
- 目標とする進路に向かって、自らの力で切り拓き、実行する、社会で活躍できる人材を育成します。全国から注目される夕張の地で、多様な学び、交流を通して、「次の社会のカタチ」を探求します。
- 開所時間 15:30～21:00（土日祝日を除く）
ただし、定期テスト期間や受験対策期間は状況に合わせて変更します。
- 塾の機能
 - ・一人一人に合わせた学習カリキュラムを作成し、授業の予復習・定期テスト対策・受験対策を受けることができます。
 - ・社会で活躍し、自らの道を切り拓く力を養うため、外部講師などからの多様な学習を受けることができます。
 - ・海外の学生、他の公設塾、地域住民など、多様な人たちと交流することができます。

入塾時に各生徒の希望に沿った
個別カリキュラムを作成し、
様々な学習をサポートします！



部活大好き！
Aさん

学力に自信がない…
新しい学年に
進級したけれど、
去年までの
内容も不安…

キセキノでは…

個人の状況に合わせた目標を設定
定期的な進捗確認により目標達成を
サポート
例)
・1年生の6月までに中学英語を総復習
・数学の定期テストで得点8割



勉強をちょっと
頑張りたい
Bさん

進学したい！
けれど、
行きたい志望校は
難しそう…



部活も勉強も
ほとんど…
Cさん

自分に何ができるか
分からないけれど、
新しいことに
チャレンジしてみたい！

キセキノでは…

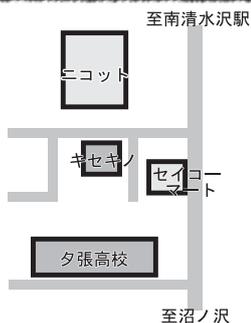
「キセキノゼミ」で自分の興味を発見
《各種ゼミやグループワークを通して
色んな可能性に挑戦》
テーマ例・プログラミングでアプリ開発
・市役所と連携して
まちづくりにチャレンジ
・海外の学生とオンライン交流

キセキノでは…

進路希望に合わせた受験対策を実施

- 《各試験対策に対応》
- ・国公立一般入試（センター試験）
 - ・私立一般入試（文系、理系）
 - ・AO&推薦入試（小論文、面接対策など）
 - ・公務員試験対策

キセキノでできること



☆キセキノ講師☆



西野有希
主な担当教科
英語・国語



松宮聡
主な担当教科
数学・理科



牧野大樹
主な担当教科
国語・社会

夕張市南清水沢3-27-11 ☎52-3141 (市企画係) kisekino.yubari@gmail.com

校外は実践のフィールド 夕張高校生イベントに学びを

夕張高校
チャレンジ・モア・スピリッツ
第八号

夕張高校3学年就職・専門学校進学コースは今、6月23日に開催されるイベントである「ONSENガストロノミーウォーキングinゆうばり」への企画参加に向けた準備中だ。

「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」って何？

日本の魅力あふれる温泉地を拠点にして、その地域特有の「食」、「自然」、「文化・歴史」すべてをウォーキングによって、「一度に「体感」できる新たなツーリズム。夕張では、6月23日午前9時30分から行われる。ホテルマウントレイスイ前を出発し、およそ9キロメートルの道程を、夕張メロンなどの食や幸福の黄色いハンカチひろばなどの名所などを楽しみながら歩き、最後にはレイスイの湯につかるコースが用意される。参加費は大人三千円、小人二千円。事前申込制。申し込みはwebサイト (<http://spoen.net/74750>) によるほか、電話 (0570-550-846) からでも可能。人数に限りあり。



企画内容を市職員に提案

5月2日、夕張高校の総合実践の授業の中で、市の職員に対する企画提案会を行い、生徒たちは、自ら考えたイベント参加の企画内容の提案を行った。内容は、周辺のごみ拾いを通じたコース整備や、自ら考案したシフォンケーキや飲み物の提供をはじめ、スタンプラリーの実施、各所におけるガイドなど多岐にわたっている。

磨いてきたスキルを生かす場

生徒たちは、2学年次より授業の中で磨いてきたビジネスマナーやパソコン技能、また商品開発(シフォンケーキやマドレーヌ)などのスキルを今回、校外で生かすことになる。先日行われた市職員への企画提案会においては、企画などの事前準備から当日の出迎え、司会などの段取りについても生徒自ら行い、まさに挑戦、実践の中で学びを得ているところだ。6月のイベントに向けてこれからも企画内容を磨いていくとのことなので、彼らの活躍と成長が楽しみだ。

生徒の声

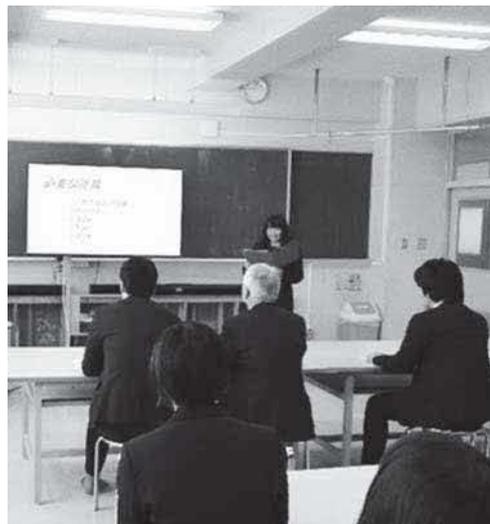
「チャレンジ・モア・スピリッツ」第八号で以上の取組みを記事にするに当たって、3学年就職・専門学校進学コースの石田さんにお話を聞いた。

Q…イベントへの意気込みは。

A…イベントに参加する観光客など、市外から訪れる方にメロン以外にも夕張の魅力を知ってほしい。夕張は地域や人のあたたかさ、魅力だと思っているので、イベントを通じてそういう面を知ってもらえればいいと思う。

Q…企画を考えるに当たって課題に感じたことは。

A…意外と地元である夕張の名所などについて知らないこと。知らない市外の方をガイドできないので、課題だと感じる。



市職員に対する企画提案会の様子



パソコンを駆使しながら企画提案内容を練った



話を聞かせてくれた
石田さん



頑張っています、部活動！ 直撃インタビュー

夕張高校 チャレンジ・モア・スピリッツ 第九号

夕張高校では現在十二の部活動同好会があり、各所でその若さを燃やしているところである。今回の「チャレンジ・モア・スピリッツ」では、そんな夕張高校の部活などで活躍する生徒を代表して、陸上部の板谷さん、美術部の本間さんに話を聞いた。

普段どんな活動をしているの？



陸上部の板谷さん(3年)

板谷さん(以下敬称略)：陸上部の練習は週5日です。土日は記録会があったり、大会が近いと練習に充てたりで、それを含めるとほぼ毎日活動しています。

記者：板谷さんは、競歩の選手だったね。競歩の選手は、どんな練習をするの？

板谷：5分くらいウォーミングアップした後で、ドリル(筋力や関節、フォームの訓練)を行います。国道沿いの歩道で練習することも多いです。

記者：国道沿いで練習するのはどうして？

板谷：競歩は審判に見られる競技なので、誰かに見られていることを意識した中で、フォームに気を付けながらスピードに乗れるように練習する必要がありますからです。

記者：なるほど、そうなんだ！ところで、板谷さんは、高校に入ってから競歩を始めたということだけ、始めたときはどうでした？

板谷：競歩は片足をつける、膝を曲げてはいけないなどの決まりがあるので、慣れるのに大変でした。顧問の先生に教わったり、自分でインターネットを使って研究したりして、身につけました。

記者：板谷さんは2年連続全道大会出場だよ。大会に向けてトレーニングの内容を変えたりしたの？

板谷：全道大会はあまりいい結果は残せませんでした。普段よりフォームとスピードを意識しながら、アップも長めにするなど、より実戦を意識した活動をしました。

※ ※ ※



美術部の本間さん(2年)

本間さん(以下敬称略)：美術部は基本不定期に、部員の創作意欲が沸いたときに、部室の力を取りに行き、活動します。

記者：写真と絵画が活動の中心のようだけど、部員は両方するの？

本間：私は両方やりますが、写真だけという部員もいます。両方やるのはもちろん、どちらか選んでというのもあります。

記者：美術は中学校からやっていたの？

本間：絵画は中学のときからやっていました。写真は高校になってからです。夕張高校の美術部が写真をやろうようになったのは、おとしからで、地域おこし協力隊の山口さんが夕張高校でぜひ写真をとりたいということで、外部講師となってくれたのが始まりです。夕張高校には美術の先生がいなくて、部活としての活動もあんまり活発ではないところこそこういう提案をしてくれたんです。

記者：外部講師の山口さんからはどんなことを教えてもらっているの？

本間：カメラの使い方も教わりましたが、それより被写体をどう写すかとか、どんな写真を撮りたいかなどの「写真に対する思い」について教わったことがすごく良かったです。

記者：「写真に対する思い」か。写真の魅力っていうのはどう思うの？

将来の夢は？

板谷：鍼灸師として、陸上選手のケアをするトレーナーになりたいと思います。

記者：選手のことわかる鍼灸師、良いですね！

本間：助産師になりたいと思っています。妹が産まれてくるのに立ち会ったときに、助産師さんの対応に憧れたのがきっかけです。

記者：うーむ。みんなよく考えているなあ。

読者の皆さんに

アプールのしたいことは？

板谷：2020年の東京オリンピックに向けて、陸上選手が活躍することが多くなると思っています。競歩だけではなく、陸上のことをもっと知ってほしいと思います。

本間：清水沢コミュニティゲートで開催される宮文祭でも夕張高校美術部の作品が展示されるので、ぜひ見に来てほしいです。

中間試験が終わって
お疲れのところ、
どうもありがとう！



RESTART
Challenge More.